



2026年3月16日

## JR西日本あんしん社会財団 2026年度公募助成（活動及び研究）

～身近な「いのち」を支える取り組みを応援します～

### 公募助成の助成先（活動団体・研究者） が決定しました！

#### ○ 応募状況及び選考結果

JR西日本あんしん社会財団では、「安全で安心できる社会」の実現に向け、2026年度助成においても、心身のケア、防災、救急救命、事故防止並びに事故・災害等の風化防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究（1年及び2年助成）を広く募集しました。昨年設定した、令和6年能登半島地震に伴う活動助成（特別枠）の応募も、昨年より増え、活動助成48件、活動助成（特別枠）23件、研究助成46件の計117件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、全件で40件、2,830万円の助成を行うことを決定しました。

	応募件数	助成決定		
		件数	金額	採択率
活動助成	48件	19件	805万円	40%
活動助成（特別枠）	23件	11件	550万円	48%
研究助成	46件	10件	1,475万円 <sup>注</sup>	22%
合計	117件	40件	2,830万円	35%

注）研究助成（2年助成）の金額については、1年目の助成金額のみ計上しています。

※助成期間は、2026年4月1日から2027年3月31日までの1年間です

（研究助成の2年助成は2026年4月1日から2028年3月31日までの2年間）。

※各助成先の活動テーマは、資料1をご参照ください。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、資料2をご参照ください。

※上表のほか、2025年度研究助成（2年助成）の研究6件の2年目に対する助成（805万円）を行います。

#### <お問い合わせ先>

JR西日本あんしん社会財団 担当：成島・前田

E-mail:info@jrw-relief-f.or.jp

# 「2026年度公募助成(活動及び研究)」助成先一覧

【資料1】

【活動助成】

(団体名50音順)

団体名	活動テーマ
イタミライフキーパー	子育て世代の防災支援活動
一般社団法人LFA Japan	正しく知れば怖くない食物アレルギー
一般社団法人 大阪IJ	当団体が独自に作成した「救命講習用テキスト」のカラー印刷の継続
一般社団法人フリンジシアターアソシエーション	つながる・つたえるプロジェクト「明德学区防災ワークショップ」
NPO法人AQUAkids safety project	救命バイスタンダーの心的安全を守る研修開発事業
サウンド・パーサーカー	災害防止啓発・啓蒙活動
宝塚市自治会ネットワーク会議	災害に強いまちづくり～みんなで守る暮らしの安全?つながる情報、備える水とトイレ
地域の安全安心マップコンテスト実行委員会	子どもの安全安心の輪を広げるマップづくりの教材作成と出前授業の開催
特定非営利活動法人検定協議会	小学校における防災教育の活性化
特定非営利活動法人 Go-Kuma-Kids	子供向け防災・救急救命講習
特定非営利活動法人産業防災研究所	石油コンビナートからの2次災害を想定した防災ゲーム型ワークショップの開催
特定非営利活動法人鍼灸地域支援ネット	災害時における鍼灸師マッサージ師による被災者支援のための研修
特定非営利活動法人全日本企業福祉協会	高齢者の運転事故撲滅対策免許返納支援と地域社会の安心安全活動への人材づくり事業
特定非営利活動法人日本教育再興連盟	京都市を中心とする観光業の防災支援活動
特定非営利活動法人Happiness Kids Labo	出張防災教室
特定非営利活動法人まごころ医療のある暮らし創り	暮らしの近くに・まごころ安心ケア防災プロジェクト
はすの会	グリーンケア提供者の養成とケア力の向上
兵庫県救急救命研究会	第3回兵庫子どもメディカルラリー
ひらけ！互磨	誰かをケアする人がケアされる会
活動助成小計 19件	

【活動助成(特別枠)】

団体名	活動テーマ
ガリレオクラブインターナショナル	障がい者のための目的を持った「グリーントラベル」
環境リハビリテーション科学研究会	能登半島地震における障がいのある方への避難支援及び避難システムの検討
三道山子ども食堂	能登半島地震被災者支援活動
七福ふっこう隊	被災者の想いに寄り添う継続的な交流と被災者主体の活動支援による復興の促進
TASUKE愛	誰一人取り残さない復興 あんしん安全なフェーズフリーのコミュニティーづくり
特定非営利活動法人ジェイズ・マス・クワイア	被災地へ届ける愛と回復の音楽活動
特定非営利活動法人鍼灸地域支援ネット	能登半島地震被災地における傾聴と鍼灸マッサージ活動
特定非営利活動法人SUMIKAすみか	若者を中心とした被災地支援の機会の確保の充実と今後の平常時の防災意識の向上
奈良県立大学 村瀬研究室	被災地復興期における大学生ボランティアによるコミュニティ交流支援活動及び実践研究
被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」	能登半島地震・豪雨被災地における心のケアと地域コミュニティ支援
ふっこうのおと	能登地域の復興支援・コミュニティ再生
<b>活動助成(特別枠)小計 11件</b>	
※「三道山子ども食堂」は石川県、「ふっこうのおと」は富山県からの応募	

【研究助成】

(1年助成)

研究者名	研究名称
大阪国際工科専門職大学 味戸克裕	AI分光解析によるスマート災害医療支援のための薬剤安定性モニタリング基盤
関西大学社会安全学部 岡本満喜子	職業運転者による災害時の自律的判断を支援する教材の開発と実践 —経験知を反映した教材設計と効果検証—
関西学院大学大学院社会学研究科 小原直将	「復興の将来像」をめぐる外部者と生活者の視点のずれと「災害専門家」の役割に関する研究
関西学院大学人間福祉学部 坂口幸弘	死別を経験した子どもたちに伝えたい「悲しみとともにより良く生きるための知恵」 —体験知の体系的記述の試み—
大阪国際工科専門職大学 吉田武史	ドローン映像と仮想災害シミュレーションを活用した道路通行可否の自動判定技術の開発
<b>研究助成(1年助成)小計 5件</b>	

(2年助成)

研究者名	研究名称
公益財団法人全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所 小西敦	救急医療に関する判例データベースの構築と法的チェックリストの作成
関西大学社会安全学部 近藤誠司	過酷な被災想定エリアにおける要配慮者の津波リスク意識に関する研究
立命館大学 衣笠総合研究機構 白石陽子	事故・受傷予防にむけた救急搬送データ活用モデルの構築
国立大学法人和歌山大学 紀伊半島価値共創基幹 災害科学・レジリエンス共創センター 西川一弘	鉄道車両から避難する際の「共助」意識と醸成に関する研究
大阪公立大学 大学院文学研究科 橋本博文	ウェアラブル型アイトラッカーによる子どもの視線計測と列車乗降時の隙間転落防止に向けた安全啓発の検討
<b>研究助成(2年助成)小計 5件</b>	

<総合計> 40件

## 「2026年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団  
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「2026年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

## 1. 応募状況

「2026年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害、不測の事態に対する備え、その後の心のケアや身体的ケア、並びに事故、災害等の風化防止に関する活動や研究」として募集いたしました。

今年度も引き続き「活動助成（特別枠）」を設定し、甚大な被害をもたらした「令和6年能登半島地震」被災地における被災者支援活動につき、石川県、新潟県、富山県、福井県に活動拠点を置く団体も対象として募集いたしました。

今回の募集にあたり、「活動助成（特別枠）」も含めて対象となる府県にある社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、大学等への訪問やチラシ郵送等による本助成の告知活動を積極的に行い、各所でチラシ等の掲出や配布、ホームページ等への情報掲出に積極的にご協力をいただきました。

その結果、応募件数は合計 117 件（前年 116 件）となりました。

## 2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7名の委員全員が全案件の申請書を確認し、1次審査と2次審査において全案件につき、各委員で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が2次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載した当財団による本助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準とし、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等も十分踏まえつつ、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」の視点を意識し、厳正な審査により採択案を決定しました。さらに、研究助成については、当該研究の直接のアウトプットが何であり、それが社会に対しどのようなアウトカムをもたらすのかが明確に描けているかどうかについても重視しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性やニーズ、今後の発展性、社会に対する影響力のほか、申請時点での具体的な活動成果等を総合的に吟味したうえで、採択案を決定しました。

### 3. 審査結果

活動助成 30 件、1,355 万円（特別枠含む）（前年 35 件、1,645 万円）、研究助成 10 件、1,475 万円（前年 9 件、1,185 万円）、加えて研究助成 2 年目に対する 6 件、778 万円（前年 5 件、697 万円）の助成を含め、合計 46 件、3,608 万円（前年 49 件、3,527 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。

採択率は、活動助成が 43%（特別枠含む）（前年 54%）、研究助成が 22%（前年 18%）となり、全体では 35%（前年 38%）となりました。

#### (1) 活動助成

自然災害の備えとして防災・減災に関する応募が多くありました。次いで心のケア、身体のケア、救命等に関する取り組みの応募が続くこととなりました。採択件数においても、概ねそれらを反映した結果となりました。

#### (2) 活動助成（特別枠）

引き続き、令和 6 年能登半島地震による被災地域や同地震により被災された方々に対する支援活動へ助成する「特別枠」を設定して募集した結果、被災者の心のケアに関する応募が多く、次いで復興に関する取り組みの応募が続き、それらを中心に採択しました。なお、近畿 2 府 4 県以外に拠点がある団体として、石川県から 1 団体、富山県から 1 団体を採択しました。

#### (3) 研究助成

防災・減災に関する応募が最も多く、次いで安全、心のケア、救命等バランスよく応募が寄せられました。採択に当たっては本公募助成の趣旨及び社会的必要性等の審査基準に照らし、審査を行いました。加えて、それぞれ助成期間（1 年／2 年）に対し、テーマ及び計画が相応しいかの観点も重視しました。

### 4. 総評

今回も熱意溢れる多くの応募をいただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

全体を通じ、申請上の記載不備等により不採択となる件数が、依然として一定数ありました。今回は特に期間外の支出、活動や、助成金対象外への支出となるケースが散見されました。募集要項記載のとおり、活動や経費執行の期間は 4 月 1 日からの 1 年間ですし、助成金の使途は、助成対象となる活動を行うにあたって、直接的に必要な費用に限られます。提出時のチェックリストの活用とともに、特に再チャレンジされる皆さまには不採択事由を示した通知書等の確認を是非お願いしたいと思います。

活動助成については、応募された多くの方が地域等の安心・安全を高めたいとの想いでボランティアで取り組まれている方であり、日々の活動並びに今回ご応募いただきましたことに敬意を表します。

活動助成（特別枠）は、次年度も設定を予定しております。応募いただく際には、計画される活動が、被災地・被災者の方にとって必要性や優先度の高いものであることを積極的にアピールしていただければと思います。

研究助成については、萌芽的研究、応用的研究のいずれであっても、安全・安心に関し、社会実装への期待や他の研究者に参考となるような成果などを申請書から感じられるかという観点を大事にしながら審査いたしました。当研究助成が一つのテーマに対し、助成期間にかかわらず採択回数の制限を特に設けていないのは、そうした成果への到達を願うからに他なりません。今回惜しくも採択には至らず、再チャレンジをお考えの研究者の方には、所期の目的・成果実現に向け、必要な助成期間を選択いただくとともに、研究テーマの最終的なゴールイメージを申請書の目的欄に、今回の助成期間における到達点を申請書の成果欄にそれぞれ記載いただき、研究成果に至るまでのロードマップとしてお示しいただきたいという点にご留意いただき、次の機会にぜひご応募いただきたいと考えております。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。その実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、新たに取り組みを開始される皆様に敬意を表すと同時に、今後の益々のご活躍を心よりお祈りしております。